

平成 28 年度事務事業評価表 (一般用)

事務事業名		担当部課	部課コード	810500	2998-9253
事業コード	810509	ミヤコタナゴ保護対策事業		文化財保護課	
開始年度		平成 8 年度	終了年度	年度	
		グループ	記念物史跡		

事業の概要	事業の種類	自治事務	法定受託事務	法定受託 + 附加	根拠法令
	分野別計画・指針	所沢市教育振興基本計画			文化財保護法、所沢市文化財保護条例
	関連・類似事業				絶滅のおそれのある希少野生動物種の種の保存に関する法律
	総合計画の体系	章 教育・文化・スポーツ	節 市民文化	基本方針	風土に培われた歴史と文化の伝承と発信
事業開始の背景	ミヤコタナゴは昭和53年8月に上山口地区の柳瀬川最上流部で自然生息していたところを発見・保護された。絶滅の回避及び個体数の増加を図るため、上山口ナゴ類保存会が増殖実験池で二枚貝を用いた増殖を試みたが成果が上がらず、平成8年度から教育委員会が主体となった保護対策事業として人工授精による増殖を開始した。				

事業の内容	目的(どのような効果を目指して実施しているのか、具体的に)				
	絶滅に瀕している国指定天然記念物・国内希少野生動物種のミヤコタナゴを保護し、将来の野生復帰を目指して個体数の維持などの種の保存の取組みを推進する。また、市民の文化財保護意識の向上や郷土学習・環境学習等の教材として展示飼育を行い活用を図る。				
	対象(誰を、何を対象としているのか)	対象数	単位	平成 26 年度	3,030 尾
	ミヤコタナゴの個体数			平成 27 年度	3,322 尾
事業の具体的な内容及び実施方法	埋蔵文化財調査センター内で4月～6月に人工授精による増殖を実施し種の保存を図る。また、病気等の危険回避のため飼育場所を分散する必要性から私立文化幼稚園においても同様に人工授精による増殖を実施する。 文化庁の許可を得て、市内全小学校・教育センター・市役所ホール・所沢まちづくりセンターにおいて展示飼育を行い、市民の身近なところで郷土学習・環境学習等の教材として活用を図るとともに、飼育場所を分散することで危険回避を図る。 小中学校の児童生徒を対象とした見学・体験学習の受け入れ、一般市民を対象とした見学の受け入れと解説を行う。				

会計種別	一般会計	平成 26 年度 (千円)		平成 27 年度 (千円)		平成 28 年度 (千円)	
予算現額		2,820		2,693		2,707	
決算(見込み含む)		3,080		2,934			
(非常勤特別職員)	(臨時的任用職員)	(1.00 人)	(0.20 人)	(1.00 人)	(0.20 人)	「財源内訳」について平成28年度のみ、当初予算の内訳となっています。	
正規職員人件費		1.03 人	8,983	0.89 人	7,707		
事業費合計		12,063		10,641			
財源内訳	一般財源	12,063		10,641			
	国・県支出金	0		0			
	その他()	0		0			

実績	項目名	項目説明	単位	H 26	H 27	H28見込み	将来目標
				活動実績	総個体数	前年度末個体数 + 当年度人工増殖数 + 保存会・文化幼稚園からの移管数 - 死亡数	尾
	ミヤコタナゴの団体見学受け入れ件数	団体見学受け入れ件数	件	10	19	15	15
	ミヤコタナゴの飼育活動体験学習受け入れ件数	飼育活動体験学習受け入れ件数	件	5	8	8	8

成果	項目名	項目説明	単位	H 26	H 27	H28目標値	将来目標	
				成果指標	人工増殖数	人工増殖により増加した個体数	尾	700
	目標達成状況	どれだけ目標に近づいているかを達成率として示しています		%	達成率	120	108	どちらかをチェックしてください

改善点	(1)平成27年度中に改善した点(改善内容・その結果について記載してください)	(2)平成27年度成果指標の目標値が未達成の理由・分析
	水槽ごとの個体数を調整し、収容スペースの確保を図った。	

評価	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 終了	事業実施方法 (複数選択可) <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 効率化	理由	種の保存と遺伝的多様性の維持に必要な個体数を人工授精等の効率的な実施により維持していく。
	次年度予算 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	理由	人工授精による個体数の確保が継続的に必要なため。	

評価	(1)平成28年度に取り組んでいる状況		(2)今後の方向性		
	人工授精によって一定量の個体数を確保する。自然繁殖でも一定量の個体数を確保する。さらに埼玉県、地元保存会とで二枚貝の自然繁殖実験を行っている。ミヤコタナゴの展示その他の啓発事業についても、文化財保護意識の向上や郷土学習・環境学習を行う上で欠かせないため、これも引き続き行っている。		ミヤコタナゴの野生復帰には環境整備や産卵母体となる二枚貝の研究などまだまだ多くの時間を必要とするため、引き続き人工授精による種の保存を図っていく。また野生の性質を失わないように自然繁殖でも一定量の個体数を確保していく。さらに埼玉県、地元保存会との二枚貝の自然繁殖実験も継続して行っていく。ミヤコタナゴの展示その他の啓発事業も引き続き行っていく。		
評価日	H28.8.10	評価者職氏名	文化財保護担当参事兼文化財保護課長 木村立彦		

環境影響	有益な環境影響	3-3生物多様性の確保	5-4歴史・文化的環境の保全	有害な環境影響を及ぼす原因活動	飼育設備等の運転	規制を受ける環境法令等	無
						緊急事態	無